

第3回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議録

開催日時	
平成 27 年 11 月 17 日 14:00～16:10	
開催場所	
匝瑳市役所議会棟第 2 委員会室	
出席者	
委員長	鎌田元弘
委員	田邊久利、浅井茂、長谷川茂、福井敬、伊藤充児、熱田信之、江波戸友美、加瀬功一
(事務局)	
企画課：太田課長、大木主幹、伊藤主任主事	
キタイ設計：田中、平櫛	
欠席者	
椎名嘉寛、八角勝義、大塚榮一、岩井清	

協議内容
<p>【会議次第】</p> <ol style="list-style-type: none">1 開 会2 あいさつ3 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 匝瑳市人口ビジョン(素案)について(2) 匝瑳市総合戦略(骨子案)について(3) その他4 閉 会 <p>【議事内容】</p> <p>(1) 匝瑳市人口ビジョン(素案)について、資料に基づき事務局から説明した。</p> <p>《質 疑》</p> <p>委員長：わからないところなど、ご指摘ありましたら、お願いします。</p> <p>委 員：人口の将来目標 22,000 人について、現状何もしなければ、人口は将来どうなるのでしょうか。</p> <p>事務局：パターン 1 (社人研推計) やパターン 2 (日本創成会議推計) のようになる可能性があります。</p> <p>委 員：市が消滅するといわれる分岐点や限界点については、何をもって捉えるのでしょうか。もう少し具体的に言っていただくと危機感をもて</p>

協 議 内 容

ると思います。

事務局：日本創成会議では、消滅可能性都市の指標として、総人口10,000人を切るという目安があります。地方自治法では、市の目安は人口50,000人ですが、合併などの対策はあります。匝瑳市としては、22,000人を維持することは2060年の目標として捉えています。全国の事例を参考にし、絵に描いた餅にならないように、現実的な目標としております。

委員：人を呼び込めるような施策を行うのが行政の役割だと思います。27ページにあるように、結婚後の市内への居住理由については、生涯匝瑳市に住んで家族をつくることを想定していると思います。割合が、46.5%と高い「その他」の理由をみると、「親と同居」や「家を所有」しているとありますが、匝瑳市で食べていける、職業があり収入があり生活が成り立つという背景があると思います。市内外の方々に匝瑳市に住みたいという予備軍になってもらうために何が必要か。39ページに目指すべき将来の方向が示されていますが、匝瑳市に住んでもらうためには、これらの施策が必要になるという理解でよいですね。施策を精選しながら進めていただきたいと思います。

委員長：施策については、総合戦略の中で事務局から説明があると思います。それ以外でデータの疑問点等について、いかがでしょうか。

委員：13ページの主な転入先について、北海道から匝瑳市へ来ている理由はわかりますか。

事務局：複数年にわたって確認したところ、過去より北海道からの転入が確認できたわけではなく、継続的な結果ではありません。

委員：継続的な結果ではないことはわかりました。27ページの結婚後の市内への居住理由について、実家に近いことを理由に選んでいるのは匝瑳市だけなのでしょう。近隣の自治体については、いかがでしょうか。

委員長：南房総市など、他の自治体でも、同様の傾向になっていて、よく似ています。

委員：都市部ではいかがでしょうか。

委員長：都市部では傾向は異なるかもしれません。

委員：実家に子どもを預けられるというのは大きいかもしれません。女性の実家に帰りたいというのが実際なのかもしれません。面倒をみてもらえるから仕事が継続できるのもあるでしょう。委員長から、他の自治体の傾向を聞いたのでよかったです。

委員：8ページの合計特殊合計出生率について、匝瑳市の1.39という数字は高いのか、低いかわからないのですが、どうでしょうか。

事務局：東京の合計特殊出生率は1.15で、全国で最低となっています。都市部では、合計特殊出生率は下がる傾向にあります。仕事を求めて若

協議内容

い女性が東京圏にいてしまうが、子育ての環境が整っていないため、出生率はあがってきません。北海道では札幌が最小となっており、ミニ東京のようになっています。全国的には、九州や四国は合計特殊出生率が高くなっています。

委員：わかりました。

委員長：15ページの産業別年齢構成について、若者の林業の割合が高くなっているのは、理由がありますか。

事務局：15ページの3行目にあるように、林業や鉱業の就業人口(母数)が少ないためです。

委員：40ページの独自推計の移動率40%改善の理由については、なぜですか。

事務局：2040年及び2060年において、日本創生会議の消滅可能性都市の定義に該当しないように設定すると40%となりました。

委員：43ページの生産年齢人口比率については、どれくらいを維持しないといけないのか、教えてほしい。

事務局：若年女性が50%以上減少し、総人口が10,000人を切ってしまうと、日本創成会議の言う消滅可能性都市に該当してしまいます。ここでは生産年齢人口について言及されていませんが、生産年齢人口が増えてくれば、消滅の可能性は低くなります。施策をうつことによって、生産年齢人口割合をある程度押し上げることが可能だと考えています。

委員長：生産年齢人口にこだわらなくとも、高齢者が元気で働ける場合があります。また、肉体労働は無理でも知的な労働ならできるということもあるでしょう。ロボットの活用などにより、仕事ができる条件が変わってくるところです。むしろ、その条件を自治体で設定していくことが重要になってきます。また、将来の方向性についてほとんどの地域で同じになってしまっているのが気になります。人口ビジョンに比べて短期間の総合戦略の方向性が他地域とどれくらい異なってくるのかがポイントになります。

委員：生産年齢人口について、20代、30代、40代など年代別区分は可能でしょうか。

事務局：データとしてはあります。

委員：わかりました。当社ではシルバー人材センターの方々に働いていただいています。今後年齢が高い世代にも働いていただける環境づくりが必要と思いました。データがあるのであれば、必要なときに活用できますね。

委員長：人工知能などの技術革新は今後の雇用の可能性を広げますね。今大事なのは、地域にある特異点を見つけ出して、ヒントを得て施策をうつことです。今後時間をかけて議論することが必要だと思います。それ

協 議 内 容

では、続いて総合戦略の説明をお願いします。

(2) 匝瑳市総合戦略(骨子案)について、資料に基づき事務局から説明した。
《質 疑》

委員長：日本版CCRCについては、委員の発言が参考になったということですが、いかがでしょうか。

委 員：強みを伸ばし、弱みを補完するように考えなければいけません。網羅的に取り組むのではなく、施策を特化する方がよいのではないかと思います。人口減少対策として、雇用創出を重点化するしかないと思っています。雇用創出のために、どのようなことを進めるべきか。強みとしては、九十九里ホームが県内有数の福祉施設となっています。駅前でゆりかごから墓場まで安心して暮らせるまちづくりを進めることができます。若年層が介護で仕事を辞めざるを得ない状況になっているのが大きな社会問題になっています。子どもから親まで全部の面倒を見ることができるのが匝瑳市、というイメージが定着すれば、人口増につながると思います。雇用創出と福祉社会に取り組むことが重要だと思います。

委員長：南房総市では、大学と連携し、ロボットを福祉事業に導入できないか検討しています。ロボットの操作は若者が得意です。また、ネット環境を作って、仕事に就いたり、勉強したりできる可能性を探って動き出しています。動き出すということが重要です。CCRCも全国的に大きく動きつつあり、例えば湘南ではCCRCゾーンができています。成田市でも、大学(医学部)と連携したCCRCがみられます。同じCCRCでも特徴を出していくことが必要です。空き家を活用したまち全体でのCCRC構想など、差別化を図り、オンリーワンの作り込みをすることが大事です。

委 員：雇用が無いと住むことができないため、雇用創出が問題だと思います。33～34ページの高校3年生のアンケートをみると、進学して将来戻ることを考える高校生は多くないと思います。大学卒業後に匝瑳市にUターンしている人数がわかれば、有効なデータになると思います。47ページの植木について、大学農学部と提携した研修等の取り組みができれば就職につながると思います。銚子市等他市では、雇用があっても、市内に定住しないという話を聞いたことがありますので、雇用と定住は別の視点で考える必要があると思いました。また、酒々井町では市内に雇用はあまり無いが、成田市への通勤者が増え、定住者が増加し、閉鎖しそうであった学校が活性化したと聞いたことがあります。成田市への通勤者を匝瑳市に呼び込めないか、そう考えていければと思います。

委 員：高校3年生のアンケートのとおり、高校を卒業して市内に戻ってくる

協 議 内 容

割合が少ないのは事実です。しかし、必ず毎年50名程度は、職があれば戻ってくるのです。この地域での雇用といえば、医師や看護師、公務員、金融関係などが考えられます。看護を目指す生徒は毎年30名ほどいますが、戻ってくるかは別です。雇用の確保がなければ戻りたくても戻れません。介護の関係では、医学療法や作業療法を学ぶ学生もいますが、受け皿がありません。看護や介護について、都市部ではどうしても雇用条件が良くなりますが、人口が少ない地域ではその逆です。また、47ページに新規就農者の確保とありますが、たくさんある農産物にどのように付加価値をつけていくかが大切で、産官学のどこが本気になって取り組むかにかかってくる。例えば、ふるさと納税の返礼品では、匝瑳市ならではの特産品が無い。匝瑳市として何に付加価値をつけていくのかを真剣に考える必要があると思います。また、匝瑳市には目玉になる観光資源が無いと思います。例えば、銚子市や香取市では、観光資源をどのように活用し、集客できるか考え、行動に移しています。どうしたら良いのかわかった段階で、できるだけ早く進めなければ、平成31年はすぐにやってくると思います。

委 員：各委員の意見について、どれも重要でやるべきことだと思います。匝瑳市で生活し、匝瑳市に人を呼ぶために、生活の手段や雇用の機会をいかに提供できるかが重要です。目標やキャッチフレーズに対して、匝瑳市が具体的に、どのように肉付けができるかにかかっています。

委員長：どの部分だったら、肉付けができますか？KPIには具体的施策が入ってきていますが、行政だけではできないので、産官学で誰がどう取り組むかが重要になってきます。この委員の中にしかない情報を出してくれるといいです。

委 員：具体的施策のうち、54ページの地域との多様な連携に関して、先週九十九里ホームの各事業所の社内発表会に参加したところ、コミュニティケアといった周辺住民と関わりをもった介護サービス施設を運営していく事例を聞きました。非常に参考になりました。地域との多様な連携に入れるのも重要だと思います。

委員長：さまざまな地域の事例を共有すると良いかもしれません。匝瑳市の高校生が帰ってきて仕事をしているなどの事例も良いかもしれません。他はいかがでしょうか。

委 員：親の介護で仕事を辞めざるを得ない社員がいます。父親しかいない、母親しかいないなど、多種多様な家族構成があり、家族の面倒をみるのが難しくなっていると思います。職場ではなるべくフレキシブルな勤務体制でいけるよう対応していますが、限界もあります。学校に家から通いたいとか、戻ってきたいが職が少ないという声もあります。実家に近いということは重要になってくると思います。また、

協 議 内 容

工業団地について、現在空きはありませんが、一部太陽光のパネルになってしまっている所があります。新しく工業団地を造成しないと、精密機器のパネル業界やジェネリック医薬品業界など右肩上がりの企業の大規模な工場誘致は難しいと思います。可能性は無きにしも非ずなので、行政や銀行との連携を行いながら取り組む必要があります。また、同様に雇用の質を下げない、今いる人間を減らさないようにすることも大事だと思います。匠瑛市で働くと親の面倒も見てもらえるなどの恩恵を受けられるしくみがあれば、他市より匠瑛市が良いかなと考える若者もいると思います。

委員長：ねらい目となる点であると思います。CCRCという構えてしまうが、先ほどコミュニティケアという話がありましたが、地域で安心できる介護を提供することが大切です。また、最近は奨学金を借りる学生が多く、大学4年間で約300万円借金することになります。結婚すると600万円になります。返し終わった頃には家を建てて、またローンを払うといったことになります。しかし、匠瑛市に来れば例えば税金が安い、空き家を活用すれば良い家に安く住めるかもしれない、といった具体的な点が見えてくれば、住むきっかけにつながると思います。

委員：企業を呼び、建築物を建てるとなると土地が必要です。匠瑛市では農業振興地域のため建築物が建てられない土地が多い。匠瑛市に住宅や工場、店舗を建てるために、基本的な政策を見直すことが重要だと思います。匠瑛市では、工業団地だけでなく、規制緩和によってさらに雇用を生むことができると思います。

委員長：まだ御発言頂いていない方、いかがでしょうか。

委員：8ページについて、匠瑛市より規模の大きい香取市や銚子市の方が出生率が低いのが疑問に思います。介護の仕事は、給料が安いと聞いているので、税制面のメリットがあれば、もっと若者も働きやすいと思います。

委員長：全国や千葉県の出産率の推移はなだらかになっています。市町村は母数が少なく、安定した推移になっていないため、注意が必要です。

事務局：香取市には産婦人科がないと聞いています。これも、出生率が低い要因のひとつと考えられます。また、農村部は母集団が少ないため、年によって出生率にばらつきがあります。国は合計特殊出生率を高めていくことで人口1億人維持を目標にしています。

委員長：残り時間5分ほどですが、いかがでしょうか。

委員：観光で人を呼ぶというのは匠瑛市ではできないと思います。今あるものを活用して雇用を創出するには、農業の6次産業化と、植木の振興しかありません。植木組合はもっと海外に対して仕事をするのが良いと思います。匠瑛市では植木屋の造形樹が見事に並んでいます。海外

協 議 内 容

の人は驚くと思いますので、外国語の案内板を作るのが良いと思います。今の外国人観光客はインターネットで情報収集します。匝瑳市は植木で、ガーデンシティとして、クローズアップし演出して、外国の人が来て鑑賞でき、購入できるシステムを作るべきです。植木組合は努力し、匝瑳市も支援していく必要があります。6次産業化については、企業の協力が無いとできません。1次産業は盛んですが、加工するところがありません。そのため、千葉県企業と協力したり、技術支援してもらってシステムをつくる必要があります。同時に行政が支援することが必要ですが、行政は個人に支援しにくいものなので、支援しやすい組織をつくるべきです。違う組織をつくって、支援できるようにするべきです。匝瑳市にはタレントや人材がたくさん埋もれています。そういう人を見つけて発掘する発想が必要です。

委員長：植木の話と農産物加工の発想ですね。地方創生の中で、組織の設立や人材育成のしくみづくりができるの良いと思います。是非、参考にさせていただきたいです。他に御意見があれば、事務局に寄せて頂きたいです。事例や意見をパッケージ化して、残すことが重要です。

委員：社員が、匝瑳市に住むかどうかを判断する際に、持ち家志向はあるが、新築は難しいと言っていました。先日、匝瑳市議会を傍聴しましたが、リフォームに対する補助が否決されていました。若者は収入を上げることが難しいですが、家をもちたいという希望はありますので、空き家の活用が大切になってくると思います。また、ホームセンターで資材を揃え、自分でリフォームするという動きもありますので、行政や金融機関が協力できればと思います。例えば、空き家の活用にあたっては、金利を優遇するということも検討できませんか。植木については、海外を視野に入れて取り組むべきだと思います。産業発展や地域振興のために、商売のターゲットを広げる方が良いと思います。

委員：匝瑳市の空き家バンクを活用すれば、市からいろいろなアドバイスがあると思います。その点を若者へ伝えてあげて欲しいです。

事務局：市では、新築だけでなく中古住宅取得への助成も行っています。リフォームへの補助についても担当課で検討していますので、必要であれば予算をつけていきたいです。植木については、今までもかなり力を入れており、中国からバイヤーが来たり、中国向けのカタログをつくったりしています。千葉県の農産物輸出の7割が植木で、その半分以上が匝瑳市です。今後もTPPを活かすなどして、輸出に力を注いでいけたらと考えています。

委員長：意外と市民が知らなかったりします。市民全体で盛り上げていければと思います。

事務局：協議会等活用しながら、支援していければと思います。

委員：植木は、業者ではなく、個人バイヤーが中心だと思いますので、きめ

協 議 内 容

細かな対応が必要と思います。

委員長：その他、次回の予定をお願いします。

事務局：次回は、1月28日(木)の10時から開催したいと考えています。開催案内については早めに郵送いたします。以上をもちまして閉会いたします。ありがとうございました。

以 上